渋沢栄一が関わった会社（3）

銀座４丁目 本社ビル

【提供：王子ホールディングス】

【王子製紙（現・王子ホールディングス）】

栄一は国産の紙を日本中に供給しようという高い志のもと、1873（明治 6）年に「抄紙会社」を設立します。1876（明治 9）年の「製紙会社」への改称を経て、1893（明治 26）年には「王子製紙」と改称しました。王子製紙は第二次世界大戦後の財閥解体により、1949（昭和 24）年、十條製紙・本州製紙・苫小牧製紙の 3 社に分割されました。これにより、王子製紙十條工場は、十條製紙（現・日本製紙）に引き継がれました。現在、その跡地は北区王子五丁目団地などになっています。3 社に分割後、苫小牧製紙が 1960（昭和 35）年に王子製紙となり、幾度かの合併・改称を経て、現在の「王子ホールディングス」となりました。ティシュやトイレットロール、紙オムツのネピアブランドは、このグループ企業のブランド商品です。

【劇場】

栄一が本格的な西洋式劇場建設の必要性を感じたのは、幕府使節・徳川昭武の随行員として渡航した 1867（慶応 3）年のパリ万国博覧会の旅の一幕にありました。フランスが誇る名劇場・オペラ座観劇が契機になったと言われています。1911（明治 44）年、大倉喜八郎の音頭の下、栄一も発起人に名を連ね、日本初の本格的な西洋式劇場である帝国劇場が日比谷に誕生しました。

創業当時の帝国劇場と現在の帝国劇場　【写真提供：東宝株式会社演劇部】

【ホテル】

帝国ホテル

1879（明治 12）年、アメリカ第 18 代大統領のグラント夫妻が来日した際に、栄一は民間の接待役代表として携わりました。この時の経験から、栄一は海外からの来賓をもてなすための施設の必要性を強く感じました。1890（明治 23）年、井上馨や大倉喜八郎らと共に、「日本の迎賓館」として日比谷の鹿鳴館の隣に帝国ホテルを開業しました。栄一は、初代取締役会長として経営に携わりましました。

創業当時の帝国ホテル

現在の帝国ホテル【提供帝国ホテル株式会社】